

INDEX

2011年を迎えて.....	2
第27回通常総会及びシンポジウムのご案内（第一報）.....	2
第27回全国大会のお知らせ（第一報）.....	3
第26回全国大会講演論文集の購入について.....	4
研究会の開催「テーマ：学校現場に対する支援」.....	5
研究会の発表募集「テーマ：ICTを使ったインフォーマルラーニング支援」....	8
研究会の開催報告「テーマ：ICTを活用したFDと大学・高大連携」.....	8
2011年度研究報告集の予約購読（年額3,500円）について.....	8
産学協同セミナーのご案内（最終報）.....	9
第4回日中教育工学研究交流フォーラム開催のご案内（第一報）.....	10
企画委員会特別企画（社会的ネットワーク分析ワークショップ）の報告.....	10
ショートレター増刊号論文募集のご案内（最終報）.....	11
大学教員のためのFD研修会（ワークショップ）のご案内（最終報）.....	12
「テーマ：大学授業におけるアクティブラーニングを考える」	
第13期第13回理事会・議事録.....	12
第13期第14回理事会・議事録.....	13
2010・2011年度会費納入のお願い.....	14
新入会員.....	14
最近の論文投稿数と採択率.....	15

2011年を迎えて

会長 永野和男（聖心女子大学）

2011年を迎えられましたこと、皆さまとともに喜び申し上げます。

2011年といえば、7月にテレビのアナログ放送が終了し、いよいよデジタル放送時代に入ります。数年前から準備が進められてきたとはいえ、全ての国民を巻き込んでの切り替えですので、大胆な決断が必要だったでしょうし、移行への計画的な手立てが必要でしょう。スムーズに切り替わることを祈ります。

さて教育に関しても、未来に向けて大規模な切り替えが求められる課題が多数あるように思います。コンピュータやネットワークは、コミュニケーションの方法とコミュニティのあり方を根本から覆すことになるでしょう。これまで、本学会では、学校や大学の中での教育に関心が高かったようですが、企業内、社会人、家庭、老後、近隣諸国など視点を変えれば、新しい仕組みが求められる領域はいくらでも見えてきます。学校の関連でいえば、教育の情報化や情報教育の推進にすることが考えられます。この点は、うまく行っているのでしょうか。学習指導要領の改訂やそれに関連しての教科書の検定・採択などは、長い歴史もあり、スムーズに計画的に切り替えられている感があります。しかし、教材のデジタル化、電子黒板の導入などは、10年に一度しかない学習指導要領の改訂に連動して政策的に準備を整えてきたといえるのでしょうか。実験研究や実証研究とは異なり、教育現場への機器の一斉導入は、税金を使つての普及事業です。昔から言われているように、教育機器だけを導入しても（機器が授業を代行するわけではありません）、うまく機能するはずはありません。全ての教員の理解や積極的な利用、支援する組織の整備、流通できるデジタル教材の整備やその利用を継続できる経済的な保障、なによりも、機器の洗練された操作性と完成度が要求されます。しかも、技術的な見通しのもとと長期的な計画のもとに準備が進められていかなければならないわけです。

調べてみると、確かに政策では、様々な委員会や検討会の設置、導入のための予算化が進められています。しかし、導入あるいはその後は市場の競争原理だけに頼っており、長期的な教育政策のために、国民に理解を促し、経済界を巻き込んで研究開発や準備を進めてきたという歴史はありません。先導的プログラムやフューチャースクール計画など、未来を見越したプロジェクトも確かに取り組まれてはいますが、実用化の段階では競争原理に任せられています。もう少し、しっかりしたビジョンを持って長期的に計画・実施し、運用のサポートを持続する仕組みが作れないものでしょうか。

私立の学校なら、生徒の募集も含め、多少の効率化と競争原理も成り立つでしょう。しかし、公立は、まさに国民のために税金を使つて運営されているとって過言でないのです。教育の情報化が、技術の発展の普及の成果をうまく生かして、自然な形で学校を新しく切り替えていくいい事例になってほしいと願っています。そして、教育工学なら、その方法、知見や道具、そして人材を提供できると信じています。

日本教育工学会 第27回通常総会及びシンポジウムのご案内（第一報）

日時：2011年06月18日（土） 13:00～17:30（受付12:30より）
 場所：東京工業大学 大岡山キャンパス デジタル多目的ホール
 東京都目黒区大岡山2-12-1 <http://www.titech.ac.jp/>
 ○東急大井町線 大岡山駅 徒歩1分 ○東急目黒線 大岡山駅 徒歩1分
 参加費：500円（資料代）
 申込方法：当日受付にて直接お申込下さい。

【講演・シンポジウム：13:00～16:30】

■テーマ 21世紀型スキルと教育工学

■ねらい

「21世紀型スキル」が世界的な注目を集め、その評価方法を検討する「ATC21S」もスタートしました。そこで、本講演・シンポジウムでは、世界標準となる可能性がある「21世紀型スキル」について、その背景や意義、その構造や枠組み等を確認します。また、それと日本の情報教育等との共通点並びに相違点の明確化を試みます。さらに、このスキルの育成とICTの教育利用の接点も探ります。それらを通じて、21世紀型スキルの育成を目指した教育改革の方向性と可能性、それに際して日本教育工学会が推進すべきこと、提言すべきことを明らかにします。

■司会・登壇者

「ATC21S」プロジェクトの作業グループで検討されている「21世紀型スキル」の4つの定義（思考の方法・仕事の方法・学習ツール・社会生活）について関連した研究を推進している若手研究者などの登壇を予定しています。

【通常総会：16:30～17:30】

- 第1号議案 2010年度（2010.4.1-2011.3.31）事業報告及び収支決算承認の件
- 第2号議案 2011年度（2011.4.1-2012.3.31）事業計画及び収支予算案承認の件
- 第3号議案 会長、理事、監事、評議員の選任の件
- 第4号議案 名誉会員推薦の件

※今年は、通常総会は、シンポジウムの終了後に同会場にて行います。

例年とは時間が異なりますので、ご注意ください。

日本教育工学会 第27回全国大会のお知らせ（第一報）

日本教育工学会第27回全国大会を、下記のように首都大学東京 南大沢キャンパスにおいて開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募下さい。

1. 開催期日・会場

期日：2011年09月17日(土)～19日(月) (3日間)

会場：首都大学東京 南大沢キャンパス 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

京王相模原線「南大沢」駅，改札口から徒歩5分

<http://www.tmu.ac.jp/access.html>

2. 大会日程（予定）

第1日 09月17日(土)	第2日 09月18日(日)	第3日 09月19日(月)
09:00～17:00 受付	09:00～17:00 受付	09:00～15:00 受付
10:00～12:00 口頭発表1	09:30～11:30 口頭発表3	09:30～11:30 口頭発表4
12:00～13:30 昼食・各種委員会 企業展示	11:40～13:00 ポスター1	11:40～13:00 ポスター2
13:30～15:30 シンポジウム1	13:00～14:30 昼食・理事会 企業展示	13:00～14:30 昼食・大会企画委員会
15:50～17:50 口頭発表2	14:30～15:30 会長講演・全体会	14:30～17:00 課題研究発表
18:00～19:30 ワークショップ	15:40～18:10 シンポジウム2	
	18:30～20:30 懇親会	

*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示が第1日目、第2日目に開催されます（時間未定）。特に昼休みには、ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の昼食後には、会長講演が行われます。全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています。

シンポジウム1

シンポジウム1A デジタル教科書時代の新たな学びと指導方法（仮題）

シンポジウム1B IR(Institutional Research)と教育工学の関わり（仮題）

シンポジウム2

グローバル時代において日本の教育工学は何ができるか（仮題）

(2) 課題研究

本大会では、昨年に引き続き課題研究テーマを公募の上、大会企画委員会で決定します。まず、03月28日までテーマを公募します。その後、課題研究テーマを決定して、大会Webサイトおよびニューズレターで公表し発表者を募ります。課題研究のコーディネータは大会企画委員が担当します。それ以降はこれまでと同様で、発表希望者にプロポーザルを提出していただき、大会企画委員会が発表の可否を決定いたします。各課題について十分に討論することを目的としていますので、発表者は、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加しなければなりません。この点、ご留意下さい。

■課題研究テーマの公募について

テーマ案の締切：03月28日(月) 提出先：taikai2011@jset.gr.jp

テーマ案の応募書式を第27回大会Webサイトからダウンロードして、課題研究テーマ、趣旨文、氏名・連絡先等を記述し、上記メールアドレスに添付ファイルにて申請して下さい。公募された課題研究の採否は大会企画委員会で審査し、結果を04月08日に通知します。

(3) 一般研究（口頭発表とポスター発表）

一般研究発表は、口頭発表とポスター発表に分かれます。昨年までと違い、口頭発表とポスター発表の時間帯は分かれています。どちらの発表も同じ一般研究発表であり、口頭発表とポスター発表に質的な優劣はありません。発表目的に合わせてご選択下さい。なお、プログラム編成の都合上、口頭発表とポスター発表の発表形式のご希望に添えない場合があるかもしれません。あらかじめご了承下さい。ポスター発表者は、発表セッションの時間帯は、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育(情報活用能力の育成等) (3) 教科指導におけるICT活用 (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔学習 (16) 知的学習支援システム (17) 認知と学習 (18) 教育メディア (19) e-Learning (20) eポートフォリオ (21) 協調学習と協調作業 (22) ワークショップ (23) ソーシャルメディア (24) その他

(4) International Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。発表は一般研究の口頭発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

■発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

- [課題研究] 課題研究の趣旨説明10分 研究発表各15分 総合討論1時間程度
 [一般研究] <口頭発表>発表14分 質疑応答5分（昨年から変更する予定です）
 <ポスター発表>各セッション80分（昨年から変更されています）
 昨年と違い、口頭発表とポスター発表の時間帯は分かれています。
 [International Session] 発表13分 質疑応答5分

(5) ワークショップ

本大会においてもワークショップを開催します。このワークショップは、参加者が設定したテーマについてインフォーマルに語りあう場です。実践は進んでいるものの研究として認識されていない問題や、新しい情報技術の教育利用などの萌芽的な研究について議論を行っていただくことを考えております。ワークショップは参加者主導で進めていただきます。時間（1時間30分）の使い方は参加者にまかされます。予稿の用意は必要ありません。公募の詳細は次号のニューズレターにて掲載します。

4. 大会までのスケジュール

前回の大会と同様に、論文集のCD-ROM版を文字検索可能とするため、論文はPDF形式での提出を原則とさせていただきます。

3月28日	月	課題研究企画提案書提出締切
4月08日	金	課題研究企画採否決定通知
6月01日	水	ワークショップ テーマ受け付け開始
6月23日	木	課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切
6月29日	水	ワークショップ テーマ受付締切
7月07日	木	課題研究採否決定通知
7月13日	水	ワークショップ テーマ決定
7月19日17時	火	発表者の参加費事前送金締切（クレジットカード払い、郵便振込共に） 課題研究発表原稿（2又は4ページ）提出 一般研究発表／International Session申込書・原稿（2ページ）提出 ※17時が最終締切時刻となります。原稿の差し替えは、7月26日17時まではWeb上で可能です（電子メールによる差し替えは認められません）。
7月26日17時	火	提出原稿の差し替え締切 （17時厳守。この時刻以降の原稿の提出は一切受け付けません）。
8月23日	火	発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード払い、郵便振込共に） （それ以降は送金しない）

第26回全国大会講演論文集の購入について

昨年9月に東京大学で開催された第26回全国大会の論文集に残部があります。購入をご希望の方は、学会事務局（office@jset.gr.jp）にメールで在庫を確認の上、以下の金額をご送金下さい。ご入金を確認後お送りいたします。

郵便振込用紙の通信欄に「第26回全国大会講演論文集」とご明記下さい。特にご要望がない場合、請求書・領収証等を発行しておりませんので、必要な方はその旨ご記入下さい。

- ・第26回全国大会講演論文集 1部 7,000円（論文集代6,000円＋送料1,000円）
- ・口座番号：00180-2-539055 加入者名：日本教育工学会

代金後納の場合は、研究会報告集と同様に株式会社毎日学術フォーラムに販売を委託しています（p.8参照）。代金は6,000円＋送料となります。

日本教育工学会研究会 研究会の開催

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>



研究会
2011

テーマ：学校現場に対する支援／一般

日時：2011年03月05日(土)

会場：静岡大学 静岡キャンパス(教育学部B棟)

(〒422-8529 静岡市駿河区大谷836)

担当：益川弘如 (ehmasuk@ipc.shizuoka.ac.jp)

- プログラム 発表時間：発表1件につき24分(発表19分程度、質疑5分程度)
A会場(B217教室)、B会場(B216教室)、C会場(B215教室)、D会場(B214会場)

09:55~10:00 諸連絡

10:00~12:05 午前の部

- A1) 協同学習理論を取り入れた理科における問題解決学習の指導力を高める研修モデルの改善とWebベース授業研究支援環境での操作性の高い授業研究システムの構想
孕石敏貴(埼玉大学大学院)、関根努(鴻巣市立吹上小学校)、野村泰朗(埼玉大学)
- A2) ユビキタス映像記録視聴システムを活用した授業能力育成支援の試み
平山勉(名城大学)、後藤明史(名古屋大学)、竹内英人(名城大学)
- A3) 小学校社会科における単元デザイン作成過程において表出される教師の実践的知識解明に関する研究
平松祐、石上靖芳(静岡大学大学院)
- A4) 教職大学院における協調学習を目指したデザイン研究の取り組み
ー算数科におけるジグソー学習法の活用を通してー
松島充、三輪彩乃、曾根田太郎(静岡大学大学院)、酒井宣幸(静岡大学)、益川弘如(静岡大学大学院)
- A5) 協力校と教職大学院の合同校内研修の取り組み
ー学習プロセスの可視化を基盤とした授業分析を通してー
國松弘子、植田誠人、遠藤育男、平松祐、安齊美香、杉浦綾子、杉原由佳梨(静岡大学大学院)、酒井宣幸(静岡大学)、益川弘如(静岡大学大学院)
- B1) 「信州大学テレビ」における番組制作活動を通じた社会人基礎力育成支援の取り組み
森下孟(信州大学大学院)、上條友規子、浜真美、渡邊悦之、新村正明(信州大学)
- B2) 電子教科書を利用した学習活動を活性化させる試み
尾関智恵(岡崎女子短期大学)
- B3) 図書館リテラシー授業のデザインと評価
庄ゆかり(広島大学図書館/広島大学大学院)、日野美穂(広島大学図書館)
- B4) 初年次教育におけるレポート作成支援教材の評価
船戸健司(岐阜大学大学院)、今井亜湖(岐阜大学)
- B5) 大学生の敬語に関するスキルと態度を測る尺度の作成
向山ひろみ(早稲田大学大学院)
- C1) 中学生向け合唱練習用ラーニングシステムの開発
本田雅治、松永信介、稲葉竹俊(東京工科大学大学院)
- C2) 関西光科学研究所及びきつづ光科学館ふおとんにおける地域の学校と連携したエネルギー環境教育活動
星屋泰二、西村昭彦(日本原子力研究開発機構)、下川浩正(京都府立西城陽高等学校)、工藤博幸(奈良学園中学校・高等学校)、佐々木和也(やましろサイエンス実験教室サークル)、西川雅弘(きつづ光科学館ふおとん)
- C3) 学校教育における教科での学びを主体的かつ総合化する自律型ロボット教材の要求分析
ーロボットと未来研究会に通う高校生の活動分析を通してー
野村泰朗(埼玉大学)
- C4) 教師と共同で作成した授業案による独自のシステムを用いた授業実践
佐藤貴之(北九州市立大学)、堀川一哉、力武克彰(仙台高等専門学校)
- C5) IDの手法を用いた博物館展示の開発
ー「徹底比較!長良川鵜飼vs小瀬鵜飼」を事例にー
依田芽生、仁科亜希子、今井亜湖(岐阜大学)
- D1) 電子掲示板システムにおける匿名性が発言における存在感の表出に与える影響
佐藤弘毅(名古屋大学)
- D2) オンラインディスカッションにおけるファシリテーターの活用と学習者特性に準じたグループ構成員の選定
ー教科「情報」、オンラインディスカッション授業の課題克服に向けてー
中井良(早稲田大学大学院)、山上礼恵、永岡慶三(早稲田大学)

- D3) 国際間交流学習における交流方法の検討
 -Japan-USA Teen Talk Projectを事例として-
 奥林泰一郎 (大阪大学大学院), 中澤明子 (東京大学),
 スペンス・ゼオースキ, 前迫孝憲 (大阪大学大学院)
- D4) 複数大学, 小学校をつなぐ協同制作による異文化・異年齢の創造的学び
 宮田義郎 (中京大学), 杉浦学 (津田塾大学), 原田泰 (千葉工業大学)
- D5) 小学校社会科におけるマルチマウスクイズを用いた授業実践
 周娟 (京都大学大学院), 森幹彦, 上原哲太郎, 喜多一 (京都大学)

13:05~13:10 委員会挨拶・諸連絡

13:10~15:15 午後の部第一部

- A6) ICT活用の推進を意図した教員研修の事後調査を元にした考察
 小清水貴子 (静岡大学), 藤木卓 (長崎大学), 室田真男 (東京工業大学大学院)
- A7) デジタルコンテンツを活用するための教員研修の試行
 福本徹 (国立教育政策研究所), 菊地秀文 (目黒区立東根小学校)
- A8) 児童生徒の発達段階や指導目的に応じた授業実践を促進するための情報モラル教員研修
 玉田和恵 (江戸川大学), 松田稔樹 (東京工業大学大学院)
- A9) 教員養成初期段階の学生の「目指す教師像」のテキストマイニング分析の試み
 谷塚光典, 安達仁美, 伏木久始, 東原義訓 (信州大学)
- A10) 保育所実習における実習生が抱える課題の分析
 深見俊崇 (平安女学院大学)

-
- B6) ICT活用に対する小学校教員の考えや態度
 -自由記述データの内容分析-
 櫻井みや子, 河野賢一, 和田裕一, 関本英太郎 (東北大学大学院)
- B7) 特別支援学級でのモバイル端末を教具活用した学習の検討
 -知的障害生徒のタブレット型コンピューター操作時の教示刺激と学習効果-
 荒巻恵子, 前川久男 (筑波大学大学院)
- B8) 携帯情報端末による情報活用能力の育成
 -ひとり一台のiPadを用いた情報教育の授業-
 石原一彦 (岐阜聖徳学園大学)
- B9) 分解教材を用いた中学校理科における理科と工学を横断する指導方法の改善(2)
 -iPad を活用した個別活動を取り入れた授業形態の試行-
 林壮一 (立教新座中学校・高等学校), 野村泰朗 (埼玉大学)
- B10) 学校教育用グループウェアにおけるユーザ情報の年度更新機能の改善の試み
 余田義彦 (同志社女子大学), 山野井一夫 (筑波学院大学),
 西尾康宏, 伊藤誠英 (シャープシステムプロダクト (株))

-
- C6) マンガ表現法による指導案改善のプロセスの研究
 -実習生に対するインタビューから-
 久保田善彦 (上越教育大学大学院), 鈴木栄幸 (茨城大学), 望月俊男 (専修大学)
- C7) 学習内容の次元分け分析を利用した教育用トレーディングカードゲームのデザイン手法の改善
 馬場園智基 (埼玉大学大学院), 野村泰朗 (埼玉大学)
- C8) 教授活動ゲームを用いた教師の授業力評価の改善
 松田稔樹 (東京工業大学大学院)
- C9) 模擬授業ゲームのための学習者エージェントの開発
 大神康寛 (東京工業大学), 松田稔樹 (東京工業大学大学院)
- C10) 日本史の政策を現代の問題解決に応用するゲーム学習のデザインと評価
 池尻良平 (東京大学大学院), 本郷和人 (東京大学), 山内祐平 (東京大学大学院)

-
- D6) スライドを用いた講義における受講者のノートテイキング方略に関する調査
 岩切弘行 (東京工業大学大学院), 西原明法 (東京工業大学)
- D7) eJournalPlusを使った複数文章の読解と知識構築のプロセスの分析
 望月俊男 (専修大学), 椿本弥生, 大城明緒 (東京大学大学院)
- D8) 日本語文章校正・推敲支援ツール: Tomarigi
 -添削作業の支援と省力化に向けた取組概要-
 大野博之 (東京医療保健大学), 稲積宏誠 (青山学院大学)
- D9) やる気と気づきを促す日本語文章力育成支援ツール: ComiQlip
 -通信機能とチェック機能を有効活用したコンテンツ生成方法-
 竹内純人, 又平恵美子, 稲積宏誠 (青山学院大学)

- D10) 日本語文章力育成支援ツールを活用した授業実践
ーHinakoを活用した文章構成法学習を中心にー
又平恵美子(青山学院大学), 大野博之(東京医療保健大学), 竹内純人, 稲積宏誠(青山学院大学)

15:30~17:35 午後の部第二部

- A11) 主体的に問題解決する理科学習モデルの開発
ー理科と実生活をつなぎ, 主体的に問題解決する力を高める研究ー
東島代次郎(奈良教育大学大学院)
- A12) 「理科ボックス」を活用する科学的な見方の獲得を重視した授業デザインと実践
関根努(鴻巣市立吹上小学校), 孕石敏貴(埼玉大学大学院), 野村泰朗(埼玉大学)
- A13) 未来型の算数能力を育成するための学力診断法と教材の開発
難波俊樹, 松田稔樹(東京工業大学大学院)
- A14) 数学的な見方・考え方を養うための教授活動ゲーム用数式入力インタフェースの開発
染谷諒, 松田稔樹(東京工業大学大学院)
- A15) 高校数学を題材にした知識の構造化を促す授業デザインの開発に向けて
望月雄平, 益川弘如(静岡大学大学院)
-
- B11) 北欧におけるメンターリングを通じた職能成長支援の取組の研究動向
小柳和喜雄(奈良教育大学)
- B12) 米国におけるInstitutional Researchに関する動向調査報告
渡邊雄貴, 北澤武(首都大学東京), 柳浦猛(テネシー州高等教育委員会), 永井正洋(首都大学東京)
- B13) 「学生による授業評価アンケート」の全国調査に関する報告
菅原良, 永原和夫, 松岡審璽, 池田官司(北海道文教大学)
- B14) 大学授業の質改善以外の学習支援にどう取り組むか
ー学習センター関連資格制度についての米国調査報告ー
鈴木克明(熊本大学大学院), 美馬のゆり(公立ほこだて未来大学), 山内祐平(東京大学)

-
- C11) 初学者のためのオンデマンド学習の成果と課題
柏木肇(電気通信大学大学院)
- C12) 3地点接続の「超鏡」を用いた遠隔学習の実施
中澤明子(東京大学), 奥林泰一郎, 森秀樹(大阪大学大学院), 中村優希(大阪大学),
前迫孝憲(大阪大学大学院), 片岡佐知子, 松山豊樹(奈良教育大学),
中尾正博, 佐藤哲夫, 小川恵美子(宇宙航空研究開発機構),
川杉照雄, 橋本剛正(宇宙技術開発(株)), 森川治(産業技術総合研究所)
- C13) 遠隔学習での利用を前提としたVRと実写映像の合成条件に関する考察
藤木卓(長崎大学), 津村英幸(長崎大学大学院), 寺嶋浩介(長崎大学), 小清水貴子(静岡大学)
- C14) Web会議システムに適した日本語教育支援の検討 ー中級読解授業の試みを通してー
藤村知子(東京外国語大学)

-
- D11) 二言語における語彙カテゴリー判断課題のプライミング効果
ー習熟度別脳賦活状態の解明のためにー
大石晴美(岐阜聖徳学園大学), 木下徹(名古屋大学大学院),
定藤規弘, 田邊宏樹(自然科学研究機構生理学研究所), 伊藤敏(岐阜聖徳学園大学),
梁志鋭(名古屋大学大学院)
- D12) 中国人留学生向け日本の学校教育用語学習教材の開発
王学穎(岐阜大学大学院), 今井亜湖(岐阜大学)
- D13) 英語プレゼンテーション作成支援機能の試作
橋本喜代太(大阪府立大学), 竹内和広(大阪電気通信大学)
- D14) 多声的プレゼンテーション指導におけるマンガからのプレゼンテーション・スライド構成の支援
舟生日出男(広島大学大学院), 鈴木栄幸(茨城大学)

- 参加費用: 参加費は無料です。研究会報告集の年間予約購読代金(3,500円)を支払済みの本学会会員以外の方は, 報告集代として1,000円を当日受付にてお支払い下さい。また, 当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。尚, 年会費には研究会報告集の年間購読代金は含まれておりません。
- 交通案内: 公共交通機関をご利用下さい。JR静岡駅北口バスターミナル6番乗場から「静岡大学」又は「東大谷」行きに乗りし「静大前」又は「片山」下車(所要時間25分, 1時間に5~7本運行。午前中の便は全て「静大前」に停車します。). 詳しくは, 静岡大学 Webサイトの「キャンパス・交通案内」をご参照下さい。 <http://www.shizuoka.ac.jp/ippan/shizuoka.html>
- 昼食案内: 研究会当日は大学生協の食堂が営業しております。大学周辺の飲食店はわずかです。
- 情報交換会: 研究会終了後, 静岡市内にて情報交換会を開催いたします。詳細につきましては, 研究会Webページに掲載いたします。是非ご参加下さい。

日本教育工学研究会 研究会の発表募集

【テーマ：ICTを使ったインフォーマルラーニング支援／一般】

日 時：2011年05月14日(土) 会 場：金沢大学角間キャンパス (担当：山田政寛)
 申込締切：2011年03月06日(日) 原稿提出：2011年04月10日(日)
 募集内容：

近年、生涯学習、企業内人材育成や授業外における学習など、インフォーマルラーニングの支援の必要性が主張されています。特に最近ではSNSやTwitterといったソーシャルメディアの利用が広がり、インフォーマルラーニング支援ツールとして注目されています。しかし、学習の動機付けや自己調整など、心理面の影響があり、ソーシャルメディアを始め、ICTをどのように使用し、学習支援するべきか、どのような学習システムを設計・構築すべきか議論されている状況にあります。そこで本研究会はICTを利用したインフォーマルラーニング支援に関する発表を議論や情報共有を行いたいと思います。実践、理論、開発系など幅広く募ります。また上記テーマにはこだわらない、教育工学一般における発表も募集いたします。

●発表募集に関して

- ・ 申込方法：研究会Webページよりお申し込み下さい。(http://www.jset.gr.jp/study-group/)
- ・ 原稿執筆：締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。
- ・ 原稿提出：原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。尚、期限までに提出いただけない場合は、発表取消となりますのでご注意ください。

■2011年度の研究会(7月～3月)のご案内

2011年07月02日(土) 教える人の実践知・経験知／一般
 2011年10月29日(土) 変動社会における教員養成と教師教育／一般
 2011年12月17日(土) 地域連携と教育・学習環境／一般
 2012年03月03日(土) 情報モラル教育の実践／一般

秋田大学
調整中
香川大学
山口大学

日本教育工学研究会 研究会の開催報告

日 時：2010年12月18日(土)
 発表件数：33件

会 場：大分大学
 参加者数：62名

「ICTを活用したFD と大学・高大連携／一般」というテーマで研究会を開催いたしました。研究発表では教育工学一般はもちろん、FDや大学連携、授業改善をテーマとした様々な報告が行われ、活発な質疑がなされました。終了後に情報交換会を開催し、約30名の皆さんにご参加いただきました。豊後水道の幸に恵まれ、ここでも活発に議論されていたことが印象的でした。報告書に関して若干のトラブルが生じたものの、委員長、幹事の先生方の適切なお支援と、会場の高等教育開発センター関係者、並びに参加者の皆様のご協力のおかげあって、実りある研究会を終えることができました。参加くださった皆様にお礼申し上げます。

担当：尾澤重知 (早稲田大学)



2011年度研究報告集の予約購読(年額3,500円)について

本学会では、研究会を年に5回開催し、研究報告集を発行しております。この研究報告集は事前に代金3,500円を送金された会員に配布しています。事前に3,500円をご送金いただければ研究会当日、会場で受領できます。不参加の場合は研究会終了後に郵送いたします。年度の途中でご送金いただいた場合は、次に開催される研究会終了後に、それ以前の報告集を郵送します。

代金後納の場合と非会員の場合は、以下に販売を委託しています。代金：5,000円

- ・ 株式会社 毎日学術フォーラム 販売業務課 小坂朋代
- ・ 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9階
- ・ TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555 E-mail. maf-sales@mycom.co.jp

2010年度 産学協同セミナーのご案内（最終報）

産学で議論 教育工学の視点からの未来の学校（教室）

～明日の教育現場でのICT利活用を考える～

社会の情報化の急速な発展に伴い、21世紀にふさわしい、ICTを活用した教育の実現が求められています。文部科学省は、2010年4月22日から、今後の学校教育（初等中等教育段階）の情報化に関する総合的な推進方策について検討を行う「学校教育の情報化に関する懇談会」を開催し、「教育の情報化ビジョン（骨子）」を取りまとめました。また、総務省は、ICTを利活用した協働教育推進のためのガイドライン（手引書）を策定することを目的として、「ICTを利活用した協働教育推進のための研究会」を設置し、フューチャースクール推進事業を展開しています。

ICT利活用に関する、こうした動きに対応するには、学会と産業界との連携は不可欠です。本セミナーでは、これからの学校教育におけるICT活用について、「デジタル教科書」や、それを使うためのデバイスや環境、さらにはクラウドを含むLAN等も視野に入れ、産学それぞれの立場から話題提供をしていただき、それらを踏まえて、「明日の教育現場でのICT利活用」に関して、幅広く、また密に議論したいと考えています。

こうした問題に関心を抱く、多くの方のご参加をお待ちしています。

■日時：2011年03月18日（金） 14:00～17:00 （受付開始13:30）

■会場：パナソニックセンター東京

<http://panasonic.co.jp/center/tokyo/access/index.html>

東京都江東区有明3丁目5番1号

アクセス：○りんかい線「国際展示場駅」徒歩2分 ○ゆりかもめ「有明駅」徒歩3分

■日程

14:00～14:10 趣旨説明

14:10～15:50 ミニ講演

「英語ノートデジタル版の効果」

直山木綿子（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

「デジタル教科書の展望」

黒川弘一（光村図書出版株式会社取締役企画開発本部長）

「1人1台モバイル環境の教育」

豊田充崇（和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター准教授）

「教育クラウド及び校務情報化」

藤村裕一（鳴門教育大学大学院准教授）

「未来の学校イメージ」

佐藤喜信（株式会社内田洋行公共事業本部教育総合研究所研究推進課長）

15:50～16:05 休憩

16:05～17:00 ディスカッション

講演者（直山木綿子、黒川弘一、豊田充崇、藤村裕一、佐藤喜信）

コーディネータ

野中陽一（横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター准教授）

■参加費：500円（資料代）

■参加申し込み：どなたでも参加できます。2月末日までにJSETホームページの該当箇所より、お申し込み下さい。（<http://www.jset.gr.jp/semminer/20110318.html>）

■問い合わせ先：産学協同セミナー担当 野中陽一（横浜国立大学） nonaka@ynu.ac.jp

第4回日中教育工学研究交流フォーラム開催のご案内（第一報）

本フォーラムは、1980年代から10年間に及ぶ日中教育工学協力事業（国際交流事業団プロジェクト：故井上光洋団長）並びに教育工学啓発書（坂元昂著）の影響下で育った中国・教育工学研究者が活躍する中国・教育技術協会と本学会が共同開催します。第1回は2005年11月に中国・華南師範大学で、第2回は2007年6月に関西大学で、第3回は2009年8月に中国・東北師範大学で開催されました。両国が2年ごとに会場持ち回りで互恵開催しています。

今年は以下の要領で開催します。躍進著しい中国の教育工学分野の組織・現状を含め多岐にわたる研究成果が10人の中国研究者によって紹介されますので、ぜひともご参加下さい。

1. 開催日時 2011年06月11日(土) 09:30～12日(日) 13:00
2. 開催場所 奈良教育大学
3. 参加費 無料 但し、懇親会費は自己負担
4. 問合せ先 国際交流委員会 委員長 赤堀侃司 akahori@fc.hakuoh.ac.jp

企画委員会特別企画(社会的ネットワーク分析ワークショップ)の報告

2010年11月20日(土)、企画委員会特別企画として、「社会的ネットワーク分析ワークショップ～ソーシャルメディアの教育利用を評価する～」が、外国語教育メディア学会(LET)共催、東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術学講座(BEAT)協賛の下、東京大学情報学環・福武ホール(福武ラーニングスタジオ)において実施され、28名が参加した。

企画提案者である山田(金沢大学)が企画趣旨を説明した後、林一雅氏(東京大学)より「社会的ネットワーク分析の基本的知識・方法について」という演題で講義があった。ソーシャルメディア、SNSを分析対象として社会的ネットワーク分析で何ができるのかについて説明があった。続いて、社会的ネットワーク分析の理論や手法、それらの発展、ネットワークモデル等の説明、分析ツールの紹介があった。最後に社会的ネットワーク分析の限界や個人情報取り扱い等倫理的問題についても説明がなされた。

続いて住政二郎氏(流通科学大学)より社会的ネットワーク分析の実際として、「アクセス解析とネットワーク分析を利用した外国語教育研究」について講義がなされた。情報技術の発展とCALLの歴史的経緯、それに応じた研究の方向性の転換等について、説明がなされた。続いて、住氏による、CALL教材を用いた学習のアクセス解析とネットワーク分析の事例が報告された。それには、例えば、「教材利用に積極的な、教室内でいわば『ハブ』になっている学生を発見する」といった興味深い知見が含まれていた。

住氏の発表の後、参加者でグループを組み、社会的ネットワーク分析の教育利用について議論を行い、最後に各グループから発表が行われた。学習者間の関係性を可視化することによって教員にフィードバックを返す仕組み、学校教育における授業間の関係性を可視化し、学生も教員も意識していないカリキュラムが見えてくる可能性、eラーニングにおけるドロップアウト予測等、実に多様な利用アイデアが発表された。

最後に木原俊行企画委員会委員長(大阪教育大学)より、本ワークショップの総括、学会共同企画の試みの意義、今後の展開可能性等を含む、閉会挨拶がなされ、ワークショップが終了した。

今回のワークショップの参加者は、学生、大学教員、企業人等、属性が多様であった。Twitterを介して参加申込みをされた方が約半数を占めるというのも、今までの研究会にはない、特徴であろう。そもそも企画のきっかけもTwitterから始まったものであり、学会の研究会の新しい企画・運営スタイルを提案できたのではないかと考える。

今回のワークショップは木原委員長をはじめ、企画委員会の皆様、登壇頂いた林氏、企画立案に協力して頂いた住氏、松河秀哉氏(大阪大学)、そして本企画開催に会場、機材をご提供して頂いた山内祐平氏(東京大学)の支えがあって成功した。改めてここに感謝の意を表します。

文責：山田政寛(金沢大学)



日本教育工学会論文誌 ショートレター増刊号論文募集のご案内（最終報）

日本教育工学会論文誌 vol. 35, Suppl. の発行

論文受付締切：2011年04月01日(金) 編集委員会事務局必着

日本教育工学会論文誌Vol. 35, Suppl. は、年1回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規程及び原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。ショートレターの採録条件は、Vol. 27より以下になりましたのでご注意下さい（詳細は、JET117号参照）。

1. ショートレターは、刷り上がり4ページ厳守です。（4ページを超えるものは採録しない）
2. ショートレターでは、筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です。
あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費納入等を行うことが必要です。
なお、各会員は本ショートレターを年1偏に限り投稿できます。
3. 2011年12月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・教育システム開発，教育実践研究など
- ・教育工学研究としての速報的な内容
- ・卒業論文や修士論文等としてまとめた内容，など

なお、ショートレターに掲載された内容を、研究的に発展させまとめて、論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

ページ数が限られていることから、タイトル，著者，内容については十分厳選の上，ご投稿下さい。

特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけて下さい，研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり，執筆した研究者にしてくださいようお願い致します。

ショートレターの査読日程予定(2011年度)：

- 4月 担当及び査読者の指名
- 5月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 7月 編集委員会で採録，返戻の第1回決定
- 9月 編集委員会で採録，返戻の第2回決定
- 10月 最終原稿の提出
- 11月 著者校正
- 12月 増刊号発行予定

論文投稿の仕方：

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトより電子投稿して下さい。投稿論文は電子投稿のみ受け付けています。

問い合わせ先：

電子メール： short@jset.gr.jp
Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

大学教員のためのFD研修会（ワークショップ）のご案内（最終報） テーマ：「大学授業におけるアクティブラーニングを考える」

趣 旨：この研修会は、日本教育工学会がこれまでの知見を活用し、大学教育の授業改善や教員の授業力向上へ寄与しようと、一昨年度から実施されているものです。大学教員をはじめ、大学教員を目指す学生や学校現場教員、指導主事等を対象としています。本研修会の修了生には学会より認定書を発行し、本研修を受講したことを証明します。

企 画：日本教育工学会FD特別委員会（委員長：村川雅弘）

日 時：2011年03月11日（金） 10:00～17:00

会 場：関西大学東京センター（JR東京駅日本橋口改札すぐ「サピアタワー」9階）

定 員：30名（申し込み着順で、定員になり次第、締め切ります）

参加費：2,000円（学会員）、3,000円（学会員以外）

認定書：研修会終了後に最終レポートを提出した修了生には、日本教育工学会から認定書が授与されます。

世話人：村上正行（京都外国語大学）・岩崎千晶（関西大学）

申込み：http://www.murakami-lab.org/JSET_FD/index.html にアクセスしてお申し込み下さい。

2011年03月10日（木）まで受け付けますが、定員に達した時点で受付を終了いたします。

問合先：岩崎千晶（関西大学） ciwasaki@kansai-u.ac.jp

○日程（案）：変更があるかもしれませんので、学会ホームページで確認して下さい。

10:00～10:10 開講、講師・スタッフ紹介、日程説明

10:10～11:00 ワークショップⅠ「アクティブラーニング授業に関する情報共有」

11:10～12:00 ワークショップⅡ「アクティブラーニング授業についての課題」

12:00～13:00 昼食

13:00～14:15 講演・質疑

「アクティブラーニングの質を高める授業・カリキュラムのデザイン（仮）」

溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター）

14:25～14:50 ワークショップⅢ「講演を聞いた感想の共有」

14:50～15:50 ワークショップⅣ「アクティブラーニングの改善プランの作成」

16:00～16:50 ワークショップⅣの報告と協議、講師からの助言

16:50～17:00 レポート提出についての確認、閉講

○準備物：

高等教育機関においてアクティブラーニングの授業実践を行っている参加者は自分の授業のシラバス、授業デザイン、授業資料など、授業に関する資料を6部持参すること。学生等で未だ高等教育機関において授業実践を行っていない参加者、今後アクティブラーニングの授業実践を予定している参加者はアクティブラーニングの授業デザインに関する資料を6部持参すること。

第13期第13回理事会・議事録

日時：2010年11月27日（土） 14:40～16:40

場所：聖心女子大学 3号館4階341番教室

出席：（理事）永野和男会長、永岡慶三副会長、山西潤一副会長、赤倉貴子、植野真臣、大久保昇、木原俊行、黒上晴夫、向後千春、澤本和子、三宮真智子、清水康敬、東原義訓、堀田龍也、前迫孝憲、宮田 仁、室田真男、山内祐平、矢野米雄、吉崎静夫
（監事）生田孝至、近藤 勲

1 第13期第12回理事・評議員会（合同）議事録を、一部修正の上、承認した。

2 会員の移動について承認した。

3 各種委員会報告について

(1) 編集委員会

1) 特集号34巻suppl号（ショートレター特集号）の査読が完了した。また、英文誌が発行された。

2) 論文誌の表紙デザインを来年度4月から学会ロゴを用いたものにする。

3) 評議員からの論文の質に対する指摘を受け、対応策を種々議論している。本件については、理事会でも意見交換がなされた。

4) 査読者一覧リストを学会Webサイトに掲載する。英文の論文投稿規定を修正中である。

5) 論文査読システムの改訂が終わり稼働中である。

(2) 研究会委員会

2011-2012年度の研究会開催日程および会場校の案が提案され、了承された。

- (3) 企画委員会
 - 1) 冬の合宿研究会はすでに定員オーバーでありキャンセル待ちである。
 - 2) 外国語教育メディア学会の共同企画は成功裏に終了した。今後、他学会との同様のコラボレーション事業については、内容に応じて担当委員会を決めて進めることが確認された。
 - 3) 2011年03月18日(金)の産学協同セミナーの開催について案内された。
 - 4) 2011年06月18日(土)の総会・シンポジウム会場は、東京工業大学デジタル多目的ホールである。シンポジウムの内容等は検討中である。
- (4) 大会企画委員会
 - 1) 全国大会の参加者数は1,004名であった。現在、決算処理中である。
 - 2) 2011年01月22日(土)午前中に新体制での大会企画委員会を行う予定である。
- (5) 顕彰委員会
研究奨励賞の候補者推薦は12月31日までである。
- (6) 選挙管理
理事・評議員投票用紙記載候補者の予備投票の結果が報告された。
- (7) 国際交流
2011年06月11日(土)～13日(月)の第4回日中教育工学研究交流フォーラムのプログラム案が示された。
- (8) 特別企画(FD)
 - 1) 2011年03月11日(金)の第3回FDワークショップの準備が整った。
 - 2) FD特別委員会の委員が承認された。
- (9) 広報委員会
ニューズレター177号(2011年02月04日締切)の原稿依頼がなされた。
- (10) 教育工学選書編集委員会
 - 1) 2010年11月27日(土)に第1回の委員会が行われた。
 - 2) 第1巻から第8巻までは総説的な内容の巻とする。
 - 3) 教育工学選書編集委員会の委員が承認された。

第13期第14回理事会・議事録

日時：2011年01月22日(土) 14:40～16:40

場所：聖心女子大学 3号館4階341番教室

出席：(理事) 永野和男会長，永岡慶三副会長，山西潤一副会長，赤堀侃司，植野真臣，大久保昇，小柳和喜雄，木原俊行，黒上晴夫，向後千春，澤本和子，清水康敬，南部昌敏，東原義訓，堀田龍也，宮田 仁，室田真男，山内祐平，矢野米雄，吉崎静夫
(監事) 近藤 勲

- 1 第13期第13回議事録を承認した。
- 2 会員の移動について承認した。
- 3 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会
 - 1) 論文誌及び英文誌の発行予定等が承認された。
 - 2) 学会著作物の使用に関する規定について議論され、ネット会議で継続することとした。
 - 3) 著作権侵害の可能性のある論文について、編集委員会で検討した結果が説明された。理事会にて慎重に議論し処分を定めた。学会HP上で公示する。
 - (2) 研究会委員会
12月18日の研究会で研究報告集が間に合わなかった旨、報告された。
 - (3) 企画委員会
6月シンポジウムは、午後に一括するようタイムスケジュールを検討する。テーマ及び、講演と若手研究者によるパネルディスカッションを行うことで検討中である。
 - (4) 大会企画委員会
 - 1) 新委員が承認された。
 - 2) 大会シンポジウムは「ICT活用」「国際」をキーワードにする。
 - 3) 会長の基調講演を2日目全体会に実施する。口頭発表とポスターセッションを行う。
 - 4) 一般研究発表(口頭発表)の発表時間を発表10分+質疑5分に短縮する。
 - (5) 選挙管理
役員選挙は02月21日(消印有効)を締め切り日として郵送による投票を開始している。03月19日の理事会に結果が報告される。
 - (6) 国際交流
第4回日中教育工学研究交流フォーラムのプログラム案が承認された。
 - (7) FD特別委員会
「大学授業におけるアクティブラーニングを考える」は03月11日に行われる。

- (8) 広報委員会
ニューズレター177号に、第4回日中教育工学研究交流フォーラムの第一報の案内および企画委員会特別企画の報告を加えることが承認された。
- (9) 事務・統括
1) 今年度の学会費未納者が多く経費の運用が厳しい状態にあることから、急ぎ未納者へ督促を行う予定であることが報告された。なお、来年度は12月までのなるべく早めに督促を行うことにすることも了承された。
2) 滞納者が数年分の学会費をまとめて納入しても、遡って送付する論文誌等は1年分とすることを承認した。
- (10) 教育工学選書編集委員会
前回理事会で承認された資料の通り、第1巻から第8巻までを優先して章立ての検討に入っていること等の説明があり了承された。

2010・2011年度会費納入のお願い

近々に、2011年度（2011年4月1日～2012年3月31日）の会費請求書をお送りします。クレジットカード支払い、または、同封しました郵便振込用紙により年会費をご送金くださるようお願いいたします。年会費の年額は右記のとおりです。

なお、2010年度会費が未納の方がおられます。できましたら事務処理の都合上、2月末までにご送金いただけましたら幸いです。本学会では、年会費を納入した会員のみに論文誌を発送しています。

◆学生会員について

学生会員は正規の入学者で、研究生は該当しません。学生会員の所属機関は、必ず大学名となります。所属機関が大学以外の場合には、正会員または准会員となります。

学生会員は、資格条件（大学名、学部名／研究科名、指導教員名、卒業見込／修了見込の年月）を必ず連絡して下さい。

学生会員として資格条件をご連絡いただかないで、年会費5,500円を納入された方は、とりあえず准会員に変更させていただいております。

◆会員種別と年会費・受けるサービス

(入会金 1,000円)

会員種別	年会費	論文誌	増刊号	英文誌	JSET
正会員	9,000円	1	1	1	1
准会員	5,500円		1		1
学生会員	5,500円	1	1	1	1
維持会員	50,000円/口	3	3	3	3
名誉会員	無料	1	1	1	1

(注) 論文誌：和文／年4回発行
増刊号：ショートレター特集／年1回発行
英文誌：英文／年1回発行
JSET：ニューズレター／年6回発行

新入会員

(2010年09月07日～2011年01月20日) 46名 (正会員：31名、学生会員：11名、准会員：4名)

■正会員 31名

武市久美 (東海学園大学)
竹村 哲 (富山大学)
澤崎陽彦 (東京都立小平高等学校)
水島章広 (自由が丘産能短期大学)
三上貴教 (広島修道大学)
松山哲博 (株式会社 創育)
河崎哲嗣 (園田学園女子大学)
池田宏祐
沓脱侑記 (広島大学附属福山中・高等学校)
宮沢尚史
(イーコーポレーションドットジーピー)
山崎浩隆 (熊本大学)
佐野享子 (筑波大学)
中沢研也 (筑波大学大学院)
福住紀明 (東京電機大学大学院)
野澤武司 (長岡工業高等専門学校)
森 幹彦 (京都大学)
内海志典 (福山市立福山高等学校)
崎野三太郎 (東北女子大学)

渡辺研次

内田いづみ (駿河台大学)
山田貴志 (香川大学)
中村泰之 (名古屋大学大学院)
網代 剛 (産業技術大学院大学)
渡邊 裕 (専修大学松戸高等学校)
浅田義和 (自治医科大学)
佐藤徹哉 (神戸市立工業高等専門学校)
佐野将大 (香川県立高松養護学校)
川面きよ (京都FD開発推進センター)
岡田行弘
(株式会社バネッセコーポレーション)
鍋田智広
(北陸先端科学技術大学院大学)
片受 靖 (立正大学)

■学生会員 11名

亀山 俊 (徳島文理大学人間生活学部)
山川広人 (千歳科学技術大学大学院)
菊地恵美子 (早稲田大学大学院)
山中真悟 (広島大学大学院)
片野寿一 (法政大学大学院)
小島潤子 (青山学院大学大学院)
松尾淳哉
(秀明大学英語情報マネジメント学部)
関 和子 (早稲田大学人間科学部)
土屋衛治郎 (中京大学大学院科)
長谷川貴子 (名古屋学院大学通訳次学院)
渡辺謙仁 (北海道大学大学院)

■准会員 4名

酒井統康 (多治見市立脇之島小学校)
紙谷あゆ美
河合孝一郎 (学校法人立命館)
児玉瑞代 (ブレーンバンク株式会社)

最近の論文投稿数と採択率

編集長 清水康敬

本学会の論文誌、英文誌に投稿されました論文の数と採択率を以下に示します。
ただし、2010年度は、2010年4月から12月までに投稿された数となります。

論文誌（特集号以外）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率 %
2008年度	論文	47	21	23	3		45
	資料	15	10	3	2		67
	寄書	1		1			0
2009年度	論文	59	15	42	2		25
	教育実践研究論文	3		1	2		0
	資料	10	4	2	4		40
2010年度	論文	19	4	7		8	—
	教育システム開発論文	8	3	1	1	3	—
	教育実践研究論文	16	3	5	1	7	—
	資料	8	2	2		4	—
	寄書	1		1			0

論文誌（特集号）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率 %
2008年度	論文	18	3	12	3		17
	資料	4	3	1			75
	寄書	1	1				100
	総説	3	3				100
2009年度	論文	17	7	9	1		41
	資料	9	6	3			67
	寄書	1			1		0
	総説	2	1		1		50
	巻頭言	1	1				100
2010年度	論文	14	4	10			29
	教育システム開発論文	18	9	7	2		50
	教育実践研究論文	5	3	1	1		60
	総説	1	1				100

論文誌（ショートレター）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率 %
2008年度	ショート	104	50	47	7		48
2009年度	ショート	98	51	40	7		52
2009年度	ショート	100	45	50	5		45

英文誌

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率 %
2008年度	Paper	2		1	1		0
	Translation	16	16				100
	Short Note	1			1		0
2009年度	Paper	5	3	2			60
	Technical Information	2	2				100
	Translation	10	9	1			90
2010年度	Paper	1				1	—
	Translation	9	9				100

◎学会日誌

- ・2011年03月05日(土)
研究会「学校現場に対する支援」(静岡大学)
- ・2011年03月11日(金)
大学教員のためのFD研修会(ワークショップ)
「大学授業におけるアクティブラーニングを考える」
(関西大学東京センター)
- ・2011年03月18日(金)
産学共同セミナー
「産学で議論 教育工学の視点からの未来の学校(教室)」
(パナソニックセンター東京)
- ・2011年05月14日(土)
研究会「ICTを使ったインフォーマルラーニング支援」
(金沢大学)
- ・2011年06月18日(土)
第27回通常総会及びシンポジウム
「21世紀型スキルと教育工学」(東京工業大学)
- ・2011年07月02日(土)
研究会「教える人の実践知・経験知」(秋田大学)
- ・2011年09月17日(土)～19日(月)
第27回全国大会(首都大学東京 南大沢キャンパス)

◎国際会議の案内

2011年

SITE 2011

<http://site.aace.org/conf/>
(3/7-11 Nashville, Tennessee, USA)

e-society 2011

<http://www.esociety-conf.org/>
(3/10-13, Avila, Spain)

ED-MEDIA 2011

<http://www.aace.org/conf/edmedia/>
(6/27-7/1 Lisbon, Portugal)

CSCL 2011

<http://www.isls.org/cscl2011/home.htm>
(July 4-11, Hong Kong, China)

CATE 2011

<http://www.iasted.org/conferences/home-734.html>
(July 11-13, Cambridge, United Kingdom)

E-Learn 2011

<http://www.aace.org/conf/eLearn/>
(10/17-21, Honolulu, Hawaii)

Mlearn 2011

<http://www.mlearn2011.org/>
(10/19-21, Tokyo, Japan)

お問い合わせ先 E-mail

- 論文投稿に関するお問い合わせ
編集委員会 editor@jset.gr.jp
- 研究会の開催についてのお問い合わせ
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp
- 全国大会の開催についてのお問い合わせ
大会企画委員会 taikai2011@jset.gr.jp
- 合宿研究会やシンポジウムの開催についてのお問い合わせ
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp
- その他のお問い合わせ
学会事務局 office@jset.gr.jp

広報委員会

編集長：清水康敬(東京工業大学)
担当副会長：永岡慶三(早稲田大学)
広報委員長：赤倉貴子(東京理科大学)
幹事：伊藤剛和(奈良教育大学)
委員：永田智子(兵庫教育大学)、皆川武(目白大学)、
宮田仁(滋賀大学)
E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●

日本教育工学会事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル
TEL&FAX 03-5740-9505
E-mail：office@jset.gr.jp
<http://www.jset.gr.jp>
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニュースレター
No. 177
2011年2月22日

発行人●会長 永野和男(聖心女子大学)